

---

# 白銀月夜の狼

露草紺織

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白銀月夜の狼

### 【NZコード】

N8224Y

### 【作者名】

露草紺織

### 【あらすじ】

ある雪の降り積もる朝、男爵子息カーティスはなくしものを探しに森へ出かけた。

その森で彼は小さな少女を見つけた。

華奢な身体を覆う艶やかな長い銀の髪。濃蒼色の瞳。

その少女はフェリシアと名乗った。

暖かい家に連れて帰ると、フェリシアは泣いて嫌がつた。

「あの森を離れたくない。私は嚴寒の地でないと生きられないのだ」と。

白く冷たい風が辺りの木々を撫でる。

葉も無い枝は、サワサワと哀しく軽い音を立てて静まる。  
気温は下がっているというよりも、ない。水などの液体も存在しない。何故なら瞬時に凍ってしまうから。

生物が全くいないようなこの真っ白な冬の森。

真冬。闇夜。満月。雪。この条件が揃ったときのみ、「それ」は姿を現す。

白銀の体毛で覆われ、睫毛も白銀。

色が薄く、いかにも儂いといった感じで煙のよけに消えてしまいそうな。

しかし濃蒼色の瞳が爛々と輝き、儂いといつ印象を打ち消す。その瞳は、まるで。

狼。

そこには、一匹の狼が静かにこちらを見つめていた。

\*\*\*

「何故だ……。何故死なねばならぬ。あのような下等な生物の為に  
「下等は貴様だ。我が撃を破るなどと愚劣な行為を」

この場は冷たい。寒い。

緋色の髪。燃え盛る炎の如きその髪色は、我が種族にとつては不  
愉快極まりない。いつだ、いつになれば……。

「お前は大罪を犯した。一度とここに現れるでないぞ」

それは、我が同胞を護るために犯した罪だととしても。生きるために殺したのだとしても。

撃を壊さぬために作られた撃は、あまりに残酷だ。

銀よ。かつて我を創っていた銀よ。  
もう一度我を受け入れてくれたまえ。そして。

「あの森に。あいつの元へ……。逢いたいのだ……」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8224y/>

---

白銀月夜の狼

2011年11月24日15時47分発行